

おかげさまで20周年を迎えることができました

ごあいさつ

当法人は2025年4月をもちまして、設立20周年を迎えることができました。この日を迎えることができましたのは、ひとえに関係各位の皆様方のご支援・ご協力のたまものと心より感謝申し上げます。

私たちの法人は、九州大学が福岡県久山町と共同で町民を対象に行っている健診事業と疫学研究（久山町研究）に加え、九州大学の臨床研究を支援・推進する公益法人です。1990年代よりわが国でも、人を対象としたデータ（エビデンス）に基づく医療（EBM）の考えが普及し、様々な疾病の予防法・治療法が大きく進歩しました。また近年、膨大な人のデータを分析し、そこから有益な情報や知見を導き出す学問領域であるデータサイエンスが注目されるようになり、その成果を医学界のみならず産業界などの幅広い分野で活用しようとする大きな動きがあります。当法人は、九州大学の疫学・臨床研究と民間企業との共同研究を推進して、データサイエンスの人材育成、医学的エビデンスの創出とともに、その研究成果の社会実装に貢献してまいりました。

私たちは引き続き、日本人の疾病の発症予防・重症化予防のエビデンスを生み出す活動を通じて、国民の健康増進と健康寿命の延伸に寄与できますよう一層の努力を重ねてまいる所存です。今後ともさらなるご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

代表理事 清原 裕

トピックス

九州大学病態機能内科学 教授 交代について

九州大学医学研究院病態機能内科学 教授 北園孝成先生が、2025年3月末日をもちまして定年を迎えられ退任されました。当法人の設立以来、臨床研究の立ち上げと発展に多大なる功績を残されましたことに敬意を表します。また、北園先生の後任として、同年4月1日付で吾郷哲朗先生が教授に就任されました。心よりお祝い申し上げます。



2025年3月4日 北園孝成教授 最終講義

北園 孝成 先生 ご挨拶

2025年3月末をもちまして九州大学を定年退職となりました。九州大学在職中は多くの皆様大変お世話になりました。心より御礼を申し上げます。

私の当法人との関係は2005年4月当法人の発足時に遡ります。当時、私たちは、脳卒中の疫学研究（FSR）の構想実現のために奔走しておりました。当法人の支援によって、データベースソフトの開発、リサーチスタッフの育成、産学連携の推進など困難な課題を解決することができました。その結果、FSRは2007年6月から2019年9月の間に17,704例もの患者さんから同意をいただき、そのデータを収集するとともに、現在まで予後調査を継続してまいりました。これまでに得られた膨大なデータをもとに数多くの研究成果を報告しています。

私は、2011年4月に病態機能内科学（第二内科）の教授を拝命するとともに、当法人の理事に就任させていただき、法人の運営にも関与させていただきました。この間に、脳卒中に加えて、糖尿病、腎臓病、高血圧の臨床研究にも携わり、多くの貴重な経験を行うことができました。

本年4月1日より公立学校共済組合九州中央病院に勤務しておりますが、引き続き、理事として当法人の運営のお手伝いをさせていただきます。久山町研究と各臨床研究がますます発展し、医学・医療の発展に貢献することを祈念いたしますとともに、関係の皆様のご健勝を心よりお祈りいたします。



公立学校共済組合
九州中央病院 病院長
北園 孝成 先生

吾郷 哲朗 先生 ご挨拶

2025年4月より、北園孝成名誉教授の後任として九州大学第二内科（現・病態機能内科学）教授に就任いたしました吾郷 哲朗（あごう てつろう）と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は、1993年に九州大学医学部を卒業後、第二内科に入局し、脳卒中の診療と研究を専門としてまいりました。久山町研究が、国際的な脳卒中疫学研究として出発した経緯もあり、これまで久山町研究を身近に感じながら歩んでまいりました。また、入局当初には久山町の健診にも参加した経験がございます。現在、第二内科では脳卒中、高血圧、糖尿病、腎疾患などの疾患登録を行い、久山生活習慣病研究所のご支援のもと臨床研究を推進しております。今後も、九州大学と久山町研究との連携をさらに深め、世界に向けて新たな知見を発信するとともに、久山町が推進される「健康まちづくり」に、微力ながら貢献してまいりたいと存じます。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



九州大学医学研究院
病態機能内科学 教授
吾郷 哲朗 先生



病棟カンファレンスの様子



患者さんへの病状説明

2024（令和6）年度の活動

久山町健診事業・久山町研究

■ 健診事業

久山町の2024年度生活習慣病予防健診は、ヘルスC&Cセンターにおいて同年7月11日から9月30日までの計30日間行われた。健診は予約制とし、例年通り、問診、身体計測、血圧測定、心電図検査、診察、検尿、採血、糖負荷試験、歯科健診、眼底検査を実施した。加えて、運動機能の簡便な評価法である「ザリッツ」による立ち上がり検査も行った。40歳以上の受診者数は2,721名（受診率47.2%）であった。さらに、同年10月に計12日間、65歳以上の健診未受診者29名の自宅にうかがい訪問健診を行った。また、9月の4日間、50-65歳の希望者76名を対象に低線量肺ガンCT検診を実施した。当法人はこれら町の健診事業とともに久山町研究の追跡調査を支援した。



新規受診者への説明



タッチパネルによるストレスチェック



立ち上がり検査

■ 腸内細菌叢と生活習慣病の関連に関する共同研究

株式会社明治および明治ホールディングス株式会社、九州大学との共同研究契約に基づいて、これまでに腸内細菌叢とフレイル、筋力低下に関連する腸内細菌叢に関する研究を行ってきた。2024年度はさらに腸内細菌叢とCa代謝や軽度認知障害（MCI）の関連について検討した。また、2023年に実施した腸内細菌叢に関するショットガンメタゲノム解析のデータを用いて、胆汁酸代謝およびメタボリックシンドロームに関わる腸内細菌叢の分析も行った。当法人はこれらの研究・解析を支援した。

■ 久山町疫学研究成果のITツールを活用した社会実装および疾患予防に関する共同研究

昨年度に引き続き、DeSCヘルスケア株式会社および九州大学との共同研究において、久山町研究の成果を基に開発されたITツールを活用した疾患予防に向けた取り組みを行った。また、DeSCヘルスケア株式会社およびその関連会社である日本テクトシステムズ株式会社とともに、脳MRI画像から認知症発症リスクを評価するシステムの開発も継続して行った。

■ 生活習慣がwell-beingに及ぼす影響に関する共同研究

キューサイ株式会社およびヒュービットジェノミクス株式会社、九州大学との共同研究契約に基づき、2023年度に実施した肌調査の成績を用いて、生活習慣が肌年齢に及ぼす影響に関する解析を行った。当法人はこれらの研究・解析を支援した。

■ 性ホルモンおよび生活習慣が肌状態に及ぼす影響に関する共同研究

株式会社大広と九州大学との共同研究において、2023年度に実施した肌調査の成績を用いて、血清性ホルモン値と肌年齢の関係を検討した。当法人はこれらの研究・解析を支援した。

■ 尿中神経伝達物質と抑うつ症状の関係に関する共同研究

昨年度に引き続き、株式会社LSIメディエンスおよび九州大学との共同研究において、尿中神経伝達物質と抑うつ症状発症との関連について解析を行った。当法人はこれらの研究・解析を支援した。

■ 生活習慣病及び認知症発症に関する生活因子の検討に関する共同研究

昨年度に引き続き、九州大学等との共同研究において、血糖値と認知症、サルコペニアなどの老年期疾患との関係、およびキノコ成分の血中濃度と認知症発症の関係を検討した。当法人はこれらの研究・解析を支援した。

■ 日本医療研究開発機構（AMED）認知症研究開発事業「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究（JPSC-AD）」の支援

JPSC-ADは、全国8地域（青森県弘前市、岩手県矢巾町、石川県中島町、東京都荒川区、島根県海士町、愛媛県中山町、福岡県久山町、熊本県荒尾市）に居住する地域高齢者 1 万人からなる大規模認知症コホート研究を設立し、統合された調査データを用いて認知症の危険因子を同定することを目的としている（研究期間：2016年4月～2026年3月）。さらにこのプロジェクトでは、従来型のコホート研究に、ゲノム・オミックスに関する基礎研究の手法と知見を融合させ、認知症の病態解明を図ることを目指している。

当法人はこの国家プロジェクトに参画し、データベースの構築・管理・整備の支援活動を行った。

■ 全国認知症コホート追加研究の支援

この研究では、認知症や心血管病などの疾患発症に及ぼす要因を明らかにすることを目指して、九州大学等との共同研究契約に基づき、上述の「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究（JPSC-AD）」の調査対象者について質問票を用いた追加調査を実施している。

本研究において、当法人は引き続き九州大学以外の施設のデータ収集・管理の支援業務を担当した。

（文責 二宮利治）



久山町研究スタッフ

福岡脳卒中データベース研究 Fukuoka Stroke Registry: FSR

多施設共通データベースを用いた脳卒中に関する臨床疫学研究

急性期脳卒中患者の前向き登録研究であるFSRには、2006年7月から2019年9月末日までに17,074人の患者が登録されており、現在、九州大学病態機能内科学の脳循環研究室が中心となってデータ管理や追跡調査が継続されている。2024年度は追跡17年目となり、当法人では、久山町研究の疫学・臨床研究のノウハウを生かしてFSRの支援を引き続き行った。

(文責 北園孝成)

福岡県糖尿病患者データベース研究 Fukuoka Diabetes Registry: FDR

糖尿病患者を対象としたコホート研究であるFDRには、九州大学病院および関連する糖尿病が専門の医療機関、計16施設に通院中の糖尿病患者5,131人が登録されている。2008年からの登録期間中に、食事、運動、メンタルヘルスを含む臨床情報ならびに血液、尿、DNAを収集し、コホート集団として以後17年間にわたり追跡調査を継続している。当法人は、2024年度も前年度に引き続き、九州大学病院および関連施設と緊密に連携して構築した研究体制のもと、対象者の追跡調査を継続的に支援した。

(文責 大隈俊明)

福岡腎臓病データベース研究 Fukuoka Kidney disease Registry: FKR

当法人は、九州大学病態機能内科学（九州大学病院）およびその関連施設と共同で、腎臓病患者を対象とした臨床研究（福岡腎臓病データベース研究、FKR）を推進し、以下のプロジェクトを行っている。

① 新規腎生検症例登録による腎生検コホート（FRBR）

九州大学病院および研究参加施設における新規腎生検症例のデータベースへの登録は2019年1月末に完了し、その総数は310人であった。2024年度も登録された症例の追跡調査作業の支援を行った。

② 保存期CKD症例登録による前向きコホート（保存期FKR）

2012年から2017年に4,476人の保存期慢性腎臓病（CKD）患者を登録した。2024年度も前年に引き続いてデータベース化に関わる作業の支援を行った。

③ 既存腎生検症例による後ろ向きコホート

九州大学病院と関連施設において1995年から2015年の間に生検により組織診断された腎疾患患者のうち、これまでIgA腎症1,500例、糖尿病腎症113例、巣状糸球体硬化症253例をFKRに登録した。2024年度もこれら対象患者の追跡調査を前年同様に支援した。

(文責 中野敏昭)

役 員

2025年5月1日現在

代表理事

清原 裕 久山町ヘルスC&Cセンター長
九州大学 名誉教授

副代表理事

西村 勝 久山町長

常務理事

二宮 利治 九州大学大学院医学研究院
衛生・公衆衛生学 教授

理 事

飯田 三雄 九州大学 名誉教授

石橋 達朗 九州大学 総長

上野 道雄 独立行政法人国立病院機構
福岡東医療センター 名誉院長

角森 輝美 学校法人活水学院活水女子大学
看護学部看護学科 特別専任教授

北園 孝成 公立学校共済組合 九州中央病院
病院長

只松 秀喜 久山町議会 議長

貫 正義 九州電力株式会社 相談役

蓮澤 浩明 公益社団法人福岡県医師会 会長

監 事

佐伯 久雄 久山町 前副町長

南谷 朝子 南谷朝子公認会計士税理士事務所
所長

50音順, 敬称略

ご寄付をいただきありがとうございます

2024年度は、総額 5,130,000円 の寄付を頂戴しました。この場をお借りして改めて感謝の意を表します。

(順不同)

個人 中西裕二公認会計士事務所
所長 中西 裕二 様

他 匿名 2名様

法人 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院
理事長 井手 義雄 様

医療法人医心会 福岡腎臓内科クリニック
理事長 平方 秀樹 様

医療法人宏洲整形外科医院
理事長 宏洲 士郎 様

医療法人いわい内科クリニック
理事長 岩井 啓一郎 様

当法人は、九州大学病態機能内科学ならびに衛生・公衆衛生学を中心とした臨床研究と疫学研究の成果を活用し、生活習慣病の予防と治療法の開発を通じて国民の健康福祉の推進に貢献することを目的としています。事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

尚、当法人への寄付金は、特定公益増進法人への寄付金として、所得税・法人税の税制上の優遇措置が適用されます。詳しくはホームページ

www.hisayamalife.or.jpをご覧ください。